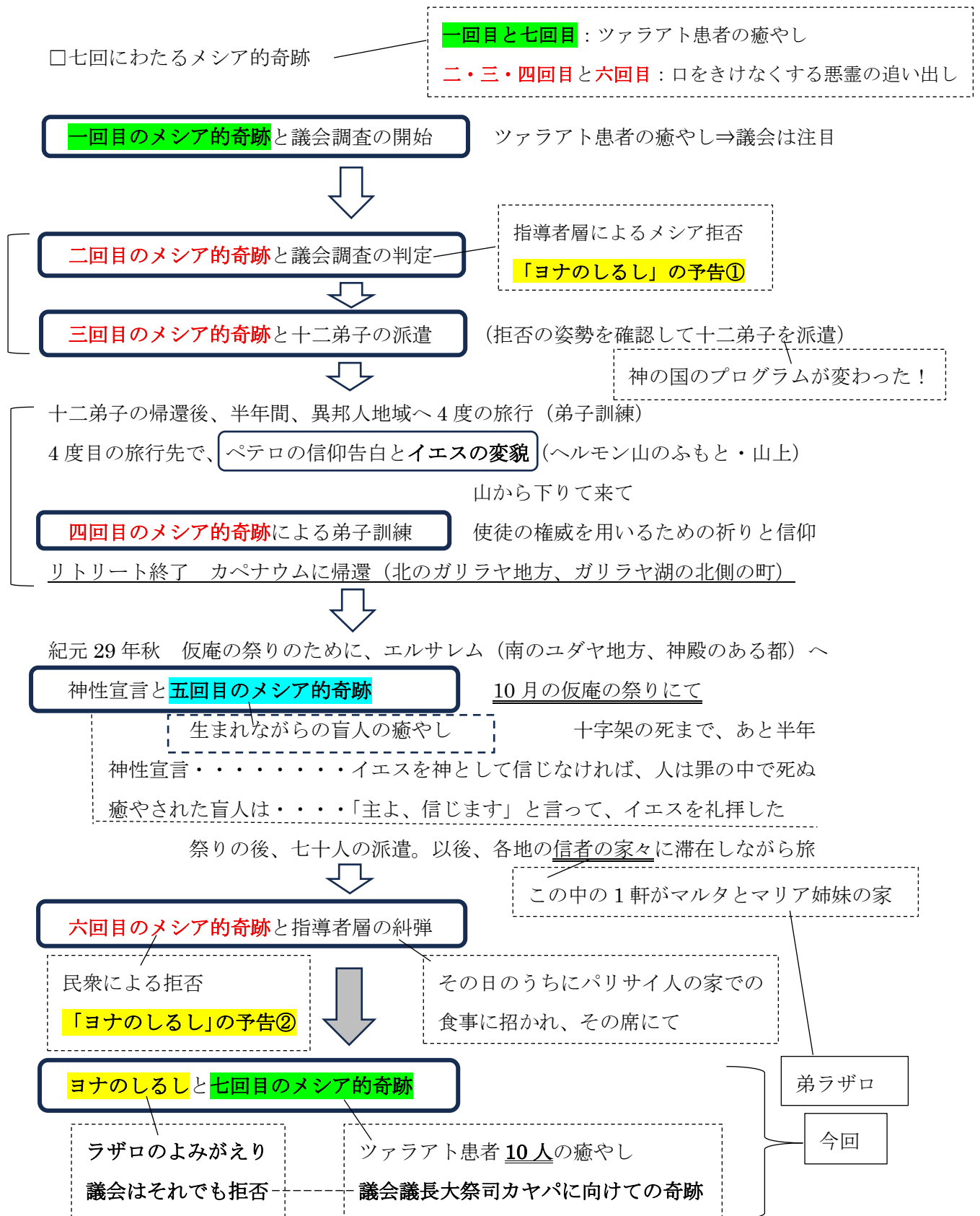


ヨナのしるしと七回目のメシア的奇跡



□アウトライン

- A) ヨナのしるし：イエスが、ラザロを死後 4 日目によみがえらせた
- B) ヨナのしるしに対する議会の拒否（議長は大祭司カヤパ）
- C) 七回目のメシア的奇跡「ツァラアト患者 10 人の癒やし」：大祭司に向けての奇跡

A) ヨナのしるし

1. イエスは、二回目のメシア的奇跡のときに、「ヨナのしるし」について予告した
マタイ 12：38～40 そのとき、律法学者、パリサイ人のうちの何人かがイエスに「先生、あなたからしるしを見せていただきたい」と言った。しかし、イエスは答えられた。「悪い、姦淫の時代はしるしを求めますが、しるしは与えられません。ただし預言者**ヨナのしるし**は別です。ヨナが三日三晩、大魚の腹の中にいたように、人の子も三日三晩、地の中にいるからです。

- ヨナのしるし・・・死んでから 3～4 日での復活を指す。預言者ヨナは海で水死して、その体は大魚に呑み込まれたが、三日後によみがえって陸地に立ち、アッシリアの都ニネベに行って預言の使命を果たした（ヨナ 1：17～3：5）。ヨナの復活は、普通の体へのよみがえり。
- 人の子も三日三晩、地の中にいる・・・人の子とは、メシアの呼称のひとつ。イエスを指す。イエスは、十字架の上で死んで、墓に葬られ、ヨナと同じように三日後に、復活するという予告。ただし、イエスの復活は、不死の体に変えられての復活。
- ヨナのしるしは、**3 回**起きる（歴史上、2 回はすでに起きた。あと 1 回）
 - 一回目・・・ラザロのよみがえり
 - 二回目・・・イエスの復活
 - 三回目・・・大患難期において、二人の証人の復活（黙 11：7～13）
 - ① 二人の証人は、大患難期の前半、3 年半の間、エルサレムで預言者として活動し、イエスをメシアであると証言する。
 - ② 彼らが証言の働きを終えると、反キリストが彼らと戦って勝ち、彼らを殺す。彼らの死体はエルサレムの大通りに三日半さらされる。
 - ③ しかし、三日半の後、いのちの息が神から出て二人のうちに入り、彼らは自分たちの足で立つ。見ていた者たちは大きな恐怖に襲われる。
 - ④ 二人は、天から大きな声が「ここに上れ」と言うのを聞く。そして彼

らは雲に包まれて天に上る。彼らの敵たちはそれを見る。

- ⑤ そのとき、大きな地震が起こって、エルサレムの十分の一が倒れ、この地震のために七千人が死ぬ。残った者たちは恐れを抱き、天の神に栄光を帰す。→3 年半後にイスラエル民族全体の救いにつながる

2. イエスは、六回目のメシア的奇跡のときにも「ヨナのしるし」を予告（ルカ 11：29）

3. ラザロ重病の知らせ、使いの者に対するイエスの返答（ヨハネ 11：1～5）

1～3 節 さて、ある人が病気にかかっていた。ベタニアのラザロである。ベタニアはマリアとその姉妹マルタの村であった。このマリアは、主に香油を塗り、自分の髪で主の足をぬぐったマリアで、彼女の兄弟ラザロが病んでいたのである。姉妹たちは、イエスのところに使いを送って言った。「主よ、ご覧ください。あなたが愛しておられる者が病気です。」

- 主に香油を塗り、自分の髪で主の足をぬぐった・・・後日の出来事【イエスが十字架にかかる 2 日前、シモンの家にて】（ヨハネ 12：3、マタイ 26：6～7）
- イエスのところ・・・このときイエスは、ヨルダン川の東側、ペレヤ地方に滞在（ヨハネ 10：40）。ユダヤ地方のベタニアへは、ヨルダン川を渡れば、さほど遠くない距離。徒歩で数時間か。
- あなたが愛しておられる者・・・5 節には、次のように記されている。
イエスはマルタとその姉妹とラザロを愛しておられた。

4 節 これを聞いて、イエスは言われた。「この病気は死で終わるものではなく、神の栄光のためのものです。それによって神の子が栄光を受けることになります。」

4. しかし、イエスはその日は出発せず、さらに二日とどまられた（ヨハネ 11：6）

5. 弟子たちは、イエスがラザロの病気の知らせを受けても動かないのは、ユダヤ地方に行くのは危険だから、と理解していた。ところが、知らせを受けた日を入れて四日目に、イエスが「もう一度ユダヤに行こう」と弟子たちに言った（ヨハネ 11：7）ので、弟子たちは反対した。弟子たちの反対とイエスの応答（ヨハネ 11：8～10）

8 節 弟子たちはイエスに言った。「先生。ついこの間ユダヤ人たちがあなたを石打ちにしようとしたのに、またそこにおいでになるのですか。」

9～10 節 イエスは答えられた。「昼間は十二時間あるではありませんか。だれでも昼間歩けば、つまづくことはありません。この世の光を見ているからです。しかし、夜歩けばつまづきます。その人のうちに光がないからです。」

- この世の光・・・太陽を指すが、仮庵の祭りではイエスはご自身を「世の光」と言った。太陽が輝いている昼間に歩けば、つまづくことはない。同様に、この世の光であるイエスといっしょにいるなら、安全である。だから、ユダヤ地方に行くことを心配することはない、という意味。

6. イエスが出発を遅らせた理由（ヨハネ 11：11～16）

14～15 節 そこで、イエスは弟子たちに、今度ははっきりと言われた。「ラザロは死にました。あなたがたのため、あなたがたが信じるためには、わたしがその場に居合わせなかったことを喜んでいます。さあ、彼のところへ行きましょう。」

7. イエスが村の近くまで来て、マルタが出迎え（ヨハネ 11：17～27）

ラザロが死んで 4 日目。イエスが村の近くまで来たときに、姉のマルタはイエスを出迎えた。マルタはイエスに会うと、なぜすぐに来てくれなかったのかとイエスに不満を言った。

21 節 マルタはイエスに言った。「主よ。もしここにいてくださったなら、私の兄弟は死ななかったでしょうに。」

8. イエスは妹のマリアを呼び出し、墓に向かう（ヨハネ 11：28～38a）

マルタは家に帰り、妹のマリアに「先生がお見えになり、あなたを呼んでおられます」と告げたので、マリアはすぐにイエスのところに行った。マリアとともに家にいて彼女を慰めていた人たちもついて行った。イエスは、まだ村に入らず、マルタが出迎えた場所におられた。

32～38 節 a マリアはイエスがおられるところに来た。そしてイエスを見ると、足もとにひれ伏して言った。「主よ。もしここにいてくださったなら、私の兄弟は死ななかったでしょうに。」イエスは、彼女が泣き、一緒に来たユダヤ人たちも泣いているのを

ご覧になった。そして、霊に憤りを覚え、心を騒がせて、「彼をどこに置きましたか」と言われた。彼らはイエスに「主よ、来てご覧ください」と言った。イエスは涙を流された。ユダヤ人たちは言った。「ご覧なさい。どんなにラザロを愛しておられたことか。」しかし、彼らのうちのある者たちは、「見えない人の目を開けたこの方も、ラザロが死なないようにすることはできなかったのか」と言った。イエスは再び心のうちに憤りを覚えながら、墓に来られた。

- 見えない人の目を開けた・・・五回目のメシア的奇跡を指す
- 霊に憤りを覚え、心を騒がせて、再び心のうちに憤りを覚えながら・・・イエスは怒った。

9. ヨナのしるし：ラザロのよみがえり（ヨハネ 11：38b～44）

38 節 b～41 節 a 墓は洞穴で、石が置かれてふさがれていた。イエスは言われた。「その石を取りのけなさい。」死んだラザロの姉妹マルタは言った。「主よ、もう臭くなっています。四日になりますから。」イエスは彼女に言われた。「信じるなら神の栄光を見る、とあなたに言ったではありませんか。」そこで、彼らは石を取りのけた。

41b～44 節 イエスは目を上げて言われた。「父よ、わたしの願いを聞いてくださったことを感謝します。あなたはいつでもわたしの願いを聞いてくださると、わたしは知っておりましたが、周りにいる人たちのために、こう申し上げました。あなたがわたしを遣わされたことを、彼らが信じるようになるために。」

そう言ってから、イエスは大声で叫ばれた。「ラザロよ、出て来なさい。」すると、死んでいた人が、手と足を長い布で巻かれたまま出て来た。彼の顔は布で包まれていた。イエスは彼らに言われた。「ほどいてやって、帰らせなさい。」

10. マリアといっしょにいて、ついて来ていた人たちの多くが、イエスがしたことを見て、イエスを信じた。しかし、何人かはパリサイ人たちのところに行って、このことを知らせた（ヨハネ 11：45～46）



B) へ つながる

B) ヨナのしるしに対する議会の拒否

1. 議会の召集 (ヨハネ 11 : 47~48)

47~48 節 祭司長たちとパリサイ人たちは最高法院を召集して言った。「われわれは何をしているのか。あの者が多くのしるしを行っているというのに。あの者をこのまま放っておけば、すべての人があの者を信じるようになる。そうすると、ローマ人がやって来て、われわれの土地も国民も取り上げてしまうだろう。」

2. 議長・大祭司カヤパによるイエス暗殺の決定 (ヨハネ 11 : 49~50、53)

49~50 節 しかし、彼らのうちの一人で、その年の大祭司であったカヤパが、彼らに言った。「あなたがたは何もわかっていない。一人の人が民に代わって死んで、国民全体が減びないですむほうが、自分たちにとって得策だということを、考えてもいない。」

53 節 その日以来、彼らはイエスを殺そうと企んだ。

C) 七回目のメシア的奇跡「ツァラアト患者 10 人の癒やし」

1. サマリアとガリラヤの境へ (ルカ 17 : 11)

11 節 さて、イエスはエルサレムに向かう途中、サマリアとガリラヤの境を通られた。

- エルサレムに向かう途中・・・イエスと弟子たちは、紀元 29 年秋の仮庵の祭りの後から翌 30 年の春の過越の祭りまでの間、各地の信者の家々を滞在先としながら、旅をした。その最終的な行先はエルサレムであるが、一直線にエルサレムに向かったのではなく、ここでは逆にエルサレムから離れて北上し、サマリアとガリラヤの境に来た。ユダヤ議会サンヘドリンの支配が及ばない地域であった。

2. 10 人のツァラアト患者たちの求め (ルカ 17 : 12~13)

12~13 節 ある村に入ると、ツァラアトに冒された十人の人がイエスを出迎えた。彼らは遠く離れたところに立ち、声を張り上げて、「イエス様、先生、私たちをあわれんでください」と言った。

3. イエスの指示 (ルカ 17 : 14a)

14 節 a イエスはこれを見て彼らに言われた。「行って、自分のからだを祭司に見せなさい。」

- イエスはすぐに彼らを癒やしたわけではない。指示した時点では何も症状は変わらないが、彼らに祭司に見てもらうように指示した。ツァラアト患者について治癒しているかどうか判定するのは、モーセの律法では、祭司と定められていた。十人がイエスの指示に従って、エルサレムに向かったということは、彼らがイエスをメシアとして認め、自分たちを癒やし、清める力がイエスにあると信じたからである。

4. 10 人はエルサレムまで行った。その途中で、癒やされた (ルカ 17 : 14b)

14 節 b すると彼らは行く途中できよめられた。

5. 10 人のうち一人は、イエスのところに戻って来て、イエスの足元にひれ伏して感謝した。彼はサマリア人であった。(ルカ 17 : 15~19)

15~19 節 そのうちの一人は、自分が癒やされたことが分かったと、大声で神をほめたたえながら引き返して来て、イエスの足もとにひれ伏して感謝した。彼はサマリア人であった。すると、イエスは言われた。「十人きよめられたのではなかったか。九人はどこにいるのか。この他国人のほかに、神をあがめるために戻って来た者はいなかったのか。」それからイエスはその人に言われた。「立ち上がって行きなさい。あなたの信仰があなたを救ったのです。」

- 引き返して来て・・・エルサレムに向かう途中で 10 人の体の皮膚が正常になり、ツァラアトの患部が消えた。10 人のうちの一人は喜んで引き返して来て、イエスに感謝した。
- 九人はどこにいるのか・・・もちろん、エルサレムに向かっているのであるが、引き返してイエスに感謝することまではしなかった。
- 立ち上がって行きなさい・・・祭司に見せなさいと改めて指示した。この人はサマリア人であったが、サマリアの祭司のもとにではなく、他の 9 人とともにエルサレムに行った。そのことは、彼がもはやサマリア独自のモーセ五書に基づく祭儀には従わず、イエスを救い主として信じ、イスラエルの神を真の神として認めたということである。

6. 記事にはないが、10 人が大祭司カヤパの前に立ち、モーセの律法の規定に従って、ツァラアト患者が癒やされ清められたことを確認する手続きが進められたことは明らかである。第 1 回目のメシア的奇跡ではツァラアト患者は一人であったが、今回はその 10

倍である。カヤパのもとで多くの祭司たちが 10 人のための手続きに関与し、カヤパは 10 人のツァラアト患者が癒やされたことを公式に宣言しなければならなかった。

- モーセの律法に従っての確認手続き・・・レビ記 14 章、ツァラアト患者が治ったと判定するのは祭司。判定が出るまでは、家族や友人のもとに行ってはならない。判定のためには、祭司は 7 日間にわたる厳重な調査と診断をしなければならない。その人が本当にツァラアト患者だったのかという調査、その人は本当に治ったのかという診断、治癒に至った経緯や誰がどのようなことをしたのか、それは適正な方法だったのかなどの調査、である。7 日間の調査により祭司が治癒を認めたときは、8 日目に律法の定める 4 種類のささげ物をする。これで、その人は家に帰ることができる。(参照、メシアの生涯ハイライト第 5 回、2024 年 8 月 25 日)
- 大祭司カヤパは、10 人の人々について、一人ひとり、次のような公式宣言を神殿にて行わねばならなかった。
 - ① その人は、確かにツァラアトに冒されていた。
 - ② その人は、今はツァラアトが治り、完全にきよい。
 - ③ その人が治ったのは、ナザレ人イエスによる。その人がイエスに助けを求め、イエスが祭司に見せるよう指示したので、そのことばにしたがってエルサレムに向かったところ、その途中で治った。